

内航貨物船、現役船長が挑んだ 初めての講演会

— SNS が発端に 東海大学で実現 —

全日本内航船員の会 事務局

平成 29 年 1 月 23 日、東海大学清水キャンパスで、現役の内航貨物船船長による講演会が開催された。講師を務めたのは、ツイッターで「大吟醸船長」のアカウント名で人気のある現役船長で、日頃から、洋上の貨物船「大峰山丸」から内航海運産業の PR を発信していた。船員を志す学生や一般の人たちの間で、講演会開催への要望がふくらみ、「現役船長の話を聞きたい」と東海大学海洋学部の学生が同校職員に相談し、この大学主催の講演会が実現した。学生だけでなく、一般の人にも公開され、約 50 名が受講した。

講演のテーマは「内航船員生活の楽しみ方、踏ん張りどころ、内航船の人手不足」。特定の海運会社を PR する講演ではなく、内航海運産業の PR が始まった。

乗船中の業務について、学校で学んでいる授業の内容は全て必要であり、基礎であり、大切であることを伝え、その上で船を乗り続けていくために最も重要なのは、今のうちに「今以上に“船を好き”になっておくこと」と続けた。

船内生活にはいれば、乗組員全員で全力で遊ぶために“遊び心”と“工夫”も大切になってくると話し、船内で実践してきた具体例を次々とあげていく。さらには、船内で円滑なコミュニケーションを図るために必要な心得も伝授。船を好きになるのと同じように、人の良いところも探して好きになっていくこと、悪いところをカバーし合うことについても、“航海”と“人生”に繋げて説明した。

内航海運業における深刻な船員不足についても紹介し、「内航船」がまだ、一般的には知られてもない深刻なレベルの状況にあることを指摘した。産業を PR することについては、「自分たちで未来を切り開くと考えると大袈裟だけど、誰かがやってくれるわけではないのだから、当たり前なのかも知れない」と話す。

そして、これから船員となって、どうしても辞めたくなくなってしまった時、他にやりたい事もみつからないのなら、会社は辞めても、絶対に船員は辞めないでほしいと訴えかけ、「若い人を軟弱と言っている人も一部にいるが、こういった講演会が実現できたこと自体が、若い人の強い志しの現れだと思う」と強調した。(了)



当会では講演会を応援するチラシを制作



講演会当日、会場の教室入り口にも

今回の「大吟醸船長の講演会」開催の実現に向け応援をいただきました皆さま、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

東海大学海洋学部 新谷浩一准教授、また、学生の皆さま、ありがとうございました。

全日本内航船員の会では、内航船、内航海運産業の存在を広く知っていただくため、これからも内航海運産業のPR活動への応援を進めてまいります。

全日本内航船員の会 事務局 松見 準